

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200117		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホームさわらび		
所在地	秋田県山本郡三種町浜田字上浜田1番地2		
自己評価作成日	令和5年10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai_gokensaku.jp/05/index.php">http://www.kai_gokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に母体となるクリニック、居宅介護支援、通所リハビリ、ショートステイ、特定施設と法人一体となり、地域密着型の医療、福祉、介護サービスの提供に努めている。ご利用者様、ご家族様、及び職員との交流や緊急時の連携など、多種多機能を活かし展開している。クリニックと併設し看取り体制も整っており、積極的に行われている。住み慣れた場所ですべて迎えることができ、ご家族様から感謝の言葉も聞かれている。法人としてどこかの部署で何があっても職員全体が協力し合うバックアップ体制が出来ている。また、近隣住民との理解や協力も得られ、緊急災害時の連携や協力体制の確保等、地域全体でご利用者様の生活支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

窓から見える田園はどこまでも開放的で、稲の成長と共に四季を感じる事が出来る。同一敷地内に法人のクリニックや介護事業所があり、医療や福祉の提供だけでなく、地域の人と人、資源や活動をつなぐ地域の拠点といえる。医療との連携体制が整っているため、最期まで住み慣れた地域、この事業所で生活することを可能にしている。利用者主体の生活実現のため、事務室に掲示していた「業務優先ではなく、利用者優先で対応してください。」という言葉が印象深い。職員の態度や言葉遣いは丁寧で、ホスピタリティに溢れており、ホテルの接客研修の成果が現れている。ストレスチェックを年に2回実施し、良好な職員関係の維持と、利用者へのより良い支援に繋がっている。地域協力隊が結成されている他、近隣のガソリンスタンドからは、災害時に燃料を優先的に提供していただいた実績がある。利用者が職員を気遣う姿や笑い声からもこの事業所は信頼に値すると納得させられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働いている (参考項目:10)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	医療法人徳洲会の理念と地域密着型の事業所として「安心」「信頼」「親切」のグループホーム独自の理念を掲げている。	ミーティングや研修で理念について、職員へ問いかけ、日常生活や家族との関係性においても、理念である「安心」「信頼」「親切」の大切さを職員へ説いている。理念は誰からも見やすい位置に掲げられている他、ホームパンフレットの冒頭に大きく表示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事であるお正月の獅子舞がさわらびに来て下さったり、お祭り行事のお神輿をクリニック駐車場で見学したりと地域の一員として積極的に参加され、交流を図っている。また、同一敷地内のクリニックや事業所を利用する地域住民と接する機会が多く、入居前からの交流が継続されている。	隣接の医療機関や介護事業所は、地域になくはない存在として、開所当初より地域住民と互いの顔の見える付き合いをしており、地域の拠点となっている。お正月に町内青年部による獅子舞が来たり、町内のお祭りの御輿の休憩所になっていたりするため、踊りを見学するなど地域とのつながりが深い。さつま芋や手作りの防災頭巾をいただくなど、地域住民と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	2か月に1回、近隣住民の方へ訪問し、「さわらび便り、利用者状況報告書」を配布、説明しながら認知症に関する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策の為、会議形式での開催はできず運営委員の方と個別にお会いし、利用者状況報告書やお便りを説明しながら配布している。また、運営委員の方の意見や要望を聞き入れ、サービス向上に活かしている。	感染対策中で対面での会議の開催は出来ないが、運営推進会議の委員に個別に会議資料を配布した際、意見を聴取し記録しているのか。「虐待に関しての職員研修は実施しているのか。」「民生委員との関わりはどのようにしているのか。」等々、専門性を持った意見ももらっている。前回の「目標達成に向けた具体的な取り組み内容」に掲げた、運営推進委員からの意見や要望が適切に把握され、記録されていることが確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に入退所報告や利用者情報等を町の担当者に報告している。法人でも地域ケア会議に参加され、都度必要な情報や案内をもらうなど連携を密にしている。	地域包括支援センターからの依頼で空室状況を報告したり、福祉課への入退所報告や区分変更、更新時の認定調査の際に利用者の状態を伝える等、連携を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で3か月に1回、身体拘束適正化委員会と高齢者虐待防止委員会を開催し、さわらび事業所として会議に参加している。法人全体での研修会も年2回開催し、身体拘束に係わる職員の理解を深めるよう努めている。また、虐待の芽・不適切ケアチェックリストを活用し、職員に年2回アンケートを実施している。集計結果を活用し委員会で話し合い、サービスの向上に努めている。	身体拘束適正化委員会と高齢者虐待防止委員会に職員をそれぞれ配置し、3ヶ月に1回の会議に参加している。虐待の芽・不適切チェックリストを活用しながら、年に2回チェックを実施し、言葉かけや態度が不適切な対応になっていないか見直す機会になっている。感じていることや相談事項等自由記載する欄も工夫されている。集計後は委員会で話し合い、より適切な対応を目指している。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内や外部研修、勉強会の機会を持ち、今後も活用できるように取り組んでいる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がご利用者様、ご家族様に契約時の説明と同意を適切に対応し、理解と信頼関係を築くようにしている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	毎月、写真を多く掲載しているさわらび便りや、利用者ごとの生活状況報告書を送付して家族の疑問や不安解消に努めている他、面会時や電話で気軽に意見が話せる環境に気をつけている。	毎月「さわらび便り」と、利用者毎のバイタルや食事量、入浴、日常の様子が丁寧に記載された「〇月の生活状況について」を家族へ送付している。面会時や電話で、家族からの意見や要望を伺っている。お盆の外出や帰省の家族からの要望に対応している。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	年2回の自己評価時に個人面談やアンケートを実施している。職員の希望に応じて日勤帯勤務や異動等の個人的な相談や意見を取り入れ、運営全般にも話しやすい職場環境作りに努めている。	定期的に職員にアンケートを実施しており、個人面談希望者は、内容によって管理者以外に看護師長や事務長等との面談をも可能としている。「介護職員は宝だと思って対応してください。」との法人の方針で、職員の意見に耳を傾け、職員が定着するよう取り組んでいる。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域内のグループホーム管理者研修会でお互いの情報交換や勉強会に参加したり、連絡を密にして質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人の事前調査を行い、精神的な不安や悩みを取り入れ、アセスメントを踏まえながら職員が対応している。また、随時利用前の施設見学を実施している。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や意見を取り入れ、連絡を密にしながら信頼関係づくりに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの暮らしや本人の生活スタイル、昔馴染みの遊びや趣味、仕事等の会話を通じて利用者の背景を理解し、共に支え合う生活を送っている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本来、面会時居室で家族団らんでゆっくりと行っていたが、現在は、玄関窓越しやオンラインでの面会を実施している。職員は、家族とのコミュニケーションを大切に、共に利用者を支えていく信頼関係を築くように対応している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	同一敷地内にあるクリニックや通所リハビリ、他事業所はホーム入居前から利用されている方が多く、入居後も顔なじみの方と接する機会がある。	感染対策中ではあるが、お盆に自宅へ外出したり、海外にいる家族とオンライン面会したり、電話で友人と会話する等して交流している。馴染みの人との関係が途絶えないようにすることが、穏やかに過ごせるきっかけになることを理解し、支援している。タブレットの活用によるオンライン面会の利用を家族に周知し、継続的な交流が出来るよう取り組んでいる。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでテーブル拭きやお盆拭き、タオルやエプロンたたみ等、孤立せずに利用者同士で行っていただいている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院しても病院へのお見舞いや家族とも連絡を密にし、状況を把握するようにしている。また、契約が終了しても必要に応じて連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から本人の思いや意向をくみ取り把握するように努め、利用者本人に寄り添ったサービスを心がけている。普段からよく観察することで表情等から心理状態を把握し、本人の思いは申し送り等を活用して職員間で情報共有している。。	野球や相撲、バレーボール等スポーツ観戦の好きな方、床屋を営んでいた方からの思い出話、釣りが好きだった方等々。その人の生活歴を踏まえ、好きな話題、仕事や趣味、思い出の話をしなが、思いや意向を引き出し、コミュニケーションに繋げている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や環境を踏まえ、職員間での情報共有に努めている。特に家族や親せき、友人、知人等の面会時に情報交換し、サービスに繋げている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	サービス担当者会議を通し、本人や家族の意向を踏まえ介護計画を作成している。作成した計画書はミーティングに職員に周知を図っている。	職員から情報収集し、アセスメントを行い、介護計画書を作成している。現状に即していない場合は臨機応変に見直しを行っている。「介護計画が簡単に閲覧できるようにパソコンの活用を検討したい。」との前回の目標達成に基づき、再検討した結果、パソコン操作が苦手な職員もいることを考慮し、個別ファイルに綴じ閲覧しやすいよう改善している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアで少しでも状態に変化や気づきがあった時、記録や申し送りで確認し、計画書の見直しへ活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動、民生委員の方々の参加や社会資源を活用し、友人、知人等の交流を踏まえた暮らしを楽しめるよう支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から同一敷地内にあるクリニックを利用する方が多いが、本人や家族が希望するかかりつけ医の利用も可能である。同クリニックから週1回訪問診療があり通院する必要が無く、急変時の対応や相談が可能となっている。また、訪問歯科は複数利用可能で利用者の希望に応じた対応をしている。	利用者の殆どが入居前から同一敷地内のクリニックがかかりつけ医となっているが、他専門医の受診継続も可能である。定期的に訪問診療、訪問歯科、歯科衛生士訪問を利用できる医療対応が整った環境にある。道路向かいにかかりつけ薬局があり、配達はもちろんのこと便宜を図ってくれている。受診後は速やかに結果を家族へ報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、利用者の状況や気になることは都度看護師へ報告し、必要に応じて受診や検査ができる体制を図っている。また、定期的な検査も実施している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入退院時は、協力機関と都度連絡を取り合いながら日頃から空き状況を確認し、連携を図っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同一法人で隣接した医療機関があり、本人や家族から看取りを希望するケースが多くある。家族や医師等と連携が図られ充実した支援が可能である。看取り後の振り返りとしてチームで看取りケアの知識や技術向上に努めている。	「看取りに関する指針」に基づき、入居時に説明している。重度化に伴い、家族、医師、管理者で話し合い、看取り同意書を交わしている。家族が付き添い看取ったケースがあった。安心して最期を迎えられるよう医療と連携し家族をチームで支援している。看取り後はケアを振り返り、次の支援につながるよう話し合っている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡体制は整っており、応急手当の指導は、研修や看護師より指示を受けている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で年2回、1回は夜間想定での避難訓練を実施している。「地域協力隊」として地域住民からの協力体制も出来ている。また、夜間帯に当直者も配置している他、避難通路、避難先が確保され、火災や水害への備えも対応している。	年2回の避難訓練を実施している他、AED使用訓練も実施している。地域協力隊として5名の地域住民との協力関係を構築しており、コロナ禍以外は避難訓練に参加している。夜勤者以外に介護資格がある当直者がホームに配置されており、心強い。持ち出しリュックには保険証や非常食、寒さシート等が備えている。BCPの策定後、委員会で活用を検討する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は利用者本人のプライバシー空間であると職員間で共通認識し、入室時には本人の了解と声掛けを行っている。声掛けも支援の内容に応じて音量や場所、タイミングには十分配慮している。	居室に入る際は、必ず一言声かけすることを原則としている。居室は中から施錠できる作りで、入室されたくない場合は一時的に利用される方も。互いに顔なじみの地域であり、受診時に職員が住民から知人の入居確認されることもあるとのことで、プライバシーに配慮した対応には特に配慮している。職員の言葉かけが実に丁寧であり、法人の方針とのこと。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自尊心を傷つけないようその人らしい身だしなみや好みにあった洋服等、おしゃれができるよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は介護職員が作り、昼と夕食の副食は同法人の厨房で作られた料理を提供している。管理栄養士とも連携し、アドバイスを受けながらそれぞれ工夫して利用者へ寄り添った食事を提供している。	季節に合わせた食事が管理栄養士の栄養管理のもと提供されている。昼食と夕食は同法人の厨房で調理されているため、利用者に関わる時間が増えるのは利点である。有する能力に応じてエプロンたたみやテーブル拭きを行っている。コロナ禍前は玄関前の広場等で、流しそうめんやバーベキューを楽しんでいた。道の駅での外食も好評で皆さん完食されたとのこと。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取は常時チェック表で把握し、体重や体調を考慮しながら支援している。水分摂取が困難な方は、ゼリーやトロミで対応している。同法人の医師や栄養士からの指導、助言を受け、栄養バランスを考えて対応している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを実施し夕食後は義歯を洗浄剤に浸して対応している。また、必要に応じて歯科医院による口腔ケアを実施している方もいる。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、個人ごとの排泄状況に応じて声掛け等の個別支援を行っている。トイレの場所がわかりやすいように貼り紙や矢印を設置したり、ポータブルトイレは使用せず、声かけ等により可能な限りトイレでの排泄ができるよう促している。	排泄チェック表を活用し、便秘時は排便コントロールを行い、失敗することのないケアに努めている。安易にオムツを使用したりポータブルトイレを設置したりするのではなく、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時はヤクルトやヨーグルトを提供したり、運動として体操を実施している。排泄状況や水分量を毎日チェックし、医師や看護師と相談の上、便秘時は下剤を服用している。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、週2回以上を原則として実施しているが、本人の希望や心身の状況に応じて時間帯の変更や順番、回数を増やすなどの支援をしている。	入浴したくない場合は、無理強いせず、声かけしながら誘導するよう配慮したり、曜日や順番を変えたりと状況に合わせて対応している。個々の状況に合わせて、週2回から3回と増やし清潔保持に努めるよう配慮している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中できるだけホールで皆で過ごして頂き、体操や作業的なレクリエーション等の活動を多くしている。個々の利用者の状況に応じて安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが利用者の服薬状況を把握し、医師や看護師、薬剤師と連携を図りながら支援をしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活では、食後にお盆やテーブル拭き、衣類やタオル、エプロンたたみ等役割を決めて日々張りのある生活を送っている。また、お花見ドライブやお祭りのお神輿見学などに外出し、気分転換を図っている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに法人内での車両を使用し、利用者全員でドライブ等に出かけている。利用者の思いや希望に応じて、家族の協力も得ながら自宅への一時外出、外泊等の支援を行っている。	大潟村の菜の花ロードへドライブし、当日は渋滞も無く、満開の桜を満喫したとのこと。ホームは広大な田園地帯に位置し、白鳥等の渡り鳥が多く、散歩を楽しんでいる。感染対策の中でもストレスをためないよう日常的に外出できるよう支援している。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない利用者が多く、基本的には施設側で管理をしている。お金を持っていないと不安な方は、小銭を本人に所持していただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が多くの時間を過ごすホールは、吹き抜けの開放的な空間となっており、天井の太い梁は明るく、床材は木の温もりを感じる。備品等も整理され、余分な貼り紙等の装飾物なくすっきりとしている。	床の張替え予定のため外にプレハブがあったが、本来であれば天気の良い日は、ホールからつながるウッドデッキのベランダで開放的な田園の景色を楽しむことができる。手作りのカレンダーは大きく見やすい。季節を感じる装飾は家庭的な雰囲気を感じる。男女兼用トイレではなく、男性用トイレが配置されており、男性利用者が利用しやすいとのこと。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには3台のソファがあり、ソファや椅子に座って外の景色を眺めたり、気の合う利用者同士で会話をしながら過ごしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前には手作りの木のプレートがあり、配色も全て異なり自分の部屋がわかりやすいようにしている。室内は、シンプルで段差もなく安全面に配慮されている。ベッド以外にダンスやテレビ、写真やぬいぐるみ等、希望の持ち込みを可能としている。	各居室からは見渡す限り開放的な田園風景が広がっており、外を眺めていた利用者が白鳥がいると職員に教えてくれる。電動ベッドが備え付けられている。自宅からダンスや写真、馴染みの物を持ち込まれ、落ち着いて過ごせる環境である。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場、居室がわかるように各入口にプレートを設置している。また、ホールには、曜日や日付がわかるように大きな手作りカレンダーも作成している。		